

■ 「つながり学習」～いのち・環境・人権～の取り組み（玉川中学校）

1 【活動の趣旨】

玉川中学校では、総合的な学習の時間を活用し、持続可能社会の実現のために、自ら追求したい課題を持ち、自分で調べたり地域の専門家に質問したり教えていただきながら、人と協力して課題を解決し行動できる生徒の育成をねらいに環境学習を中心に5年間取り組んできた。昨年度は、いのち・人権へも枠を広げ「つながり学習」として、人や社会とつながりながら学習を深めた。今年度は、「つながり学習」の2年次としてさらに充実させていく。



【(図1) 車椅子バスケット体験】

2 【特徴的な活動内容】

1年生は、『興味関心を広げ、自分が探求したい課題やテーマを見つける』ことを目標に、「校地内の生態調査」や「福祉・人権学習」に取り組んだ。LAKE SHIGA バスケットボールクラブの方々の講演を聴き、車椅子バスケット体験などをした。(図1)



【(図2) 十禅寺川の生態調査】

2年生は、『自分が決めた課題やテーマについて、専門家の協力を得て探求する』を目標に、次の5分野に別れ、フィールドワークやグループ学習を行い、学習成果をまとめた。

- ①地域分野（パナソニックひろげるエコ推進チーム、桜プロジェクト）
- ②琵琶湖分野（学識経験者：元琵琶湖博物館勤務）
- ③行政分野（南消防署）
- ④大学分野（立命館大学）
- ⑤学校分野（草津養護学校）

琵琶湖分野では、近くの川の生態調査(図2)を、行政分野では防災マップ作り(図3)を、学校分野では養護学校を訪問して交流(図4)を、大学では最新の「ゲノム学習」を行った。



【(図3) 防災マップづくり】

3年生では、修学旅行で東北を訪れての震災学習、塩竈市立玉川中学校との交流(図5)、地域でのクリーン活動などを実践した。



【(図4) 養護学校での交流】

3 【実施に当たっての工夫】

年間20時間を超える長期の取り組みとなるので、前年度のうちから計画をしっかりと立て、講師との連携を密にするよう心がけ、学びの質を下げないよう心がけた。

4 【事業の成果】

地域の多くの方に協力をいただいたおかげで、11月14日の学習発表会では多くの来賓をお招きし、成果を披露することができた。3年生は、「自ら学ぶ、現地で学ぶ、自ら実践」の3項目をクリアした3年間の集大成ができた。3年間続けることで大きな成果が表れることが確信できた。



【(図5) 塩竈市立玉川中学校との交流】

5 【事業実施上の課題】

これからも地域の教育資源(大学や企業、地域の方々)を活用させていただき、連携を継続・強化し、中学生の学びの質を高めていきたい。単なる体験で終わらせないようにプログラムを充実・発展させていくことが課題である。